

松戸市民児協だより

# 愛の小鳩

2019/11

No.60

[年2回発行]

編集と発行＝千葉県松戸市民生委員児童委員協議会（松戸市役所地域福祉課 047-366-3019）

## さらなる一歩

### 今号の案内

- 第19回千葉県民生委員児童委員大会
- 東葛飾地区民生委員児童委員会会長会
- 第69回社会を明るくする運動
- 松戸市立第一中学校みらい分校 夜間中学とは？
- 他市(柏市・市川市)民児協の紹介
- 改選期・区切りの時期を迎えて思うこと
- 編集後記

# 第19回千葉県民生委員児童委員大会

令和元年7月18日千葉県文化会館にて「第19回千葉県民生委員児童委員大会」が開催されました。

県内約千五百名の民生委員児童委員他が参加しての盛大な大会でした。会は、永年勤続者の表彰と大会宣言に続き、記念講演が行われました。大会宣言は、県下で発生の児童虐待、一斉改選を踏まえた内容でした。

《千葉県民生委員児童委員協会会長表彰》  
 顕彰（在任35年以上）7名  
 永年勤続表彰 一〇〇〇名

松戸市からは11名が参加し、61名の方が表彰されました。



## 《大会宣言》

一、私たち民生委員・児童委員は、「互いに支えあい、安心して暮らせる地域共生社会」構築の推進役として、互いに支え合う地域コミュニティの再生と、支援が必要な人、一人ひとりの相談に対し、地域の幅広い関係者と連携し問題の解決に努めます。

一、幼い命を守りすべての子どもたちが笑顔で暮らせる地域社会を作るため、虐待が疑われる異変を発見したら躊躇することなく、関係機関と連携し虐待の早期対応に取り組みます。

一、一斉改選を控え、推薦母体となる関係者や地域住民に対して、民生委員・児童委員の役割の大切さと活動を周知し、適任者の確保に努めます。

一、民生委員・児童委員が、様々な課題に的確に対応し、充実した活動を展開できるよう、活動を支える民生委員・児童委員協議会の組織の強化に努めます。

## 《記念講演》

「ダウン症の娘とともに生きて」  
 書家の金澤泰子さんと、その母に師事したダウン症のお嬢さん翔子さんのお二人で登壇され、パフォーマンスと講演が行われました。

## 令和元年度 東葛飾地区 民生委員児童委員会 会長会

### 松戸市で開催



り行われました。

令和元年8月23日松戸市民協の主催で、東葛飾地区（流山市、柏市、我孫子市、野田市、鎌ヶ谷市、浦安市、松戸市の計7市）の市民協の会長及び事務局の方、本市民協の理事を交え、会長会が執

行われました。会長会では、本郷谷健次松戸市長及び千葉県民協事務局長からそれぞれ挨拶があった後、議題である「一斉改選への取り組みについて」、「行政からの依頼について」の討議が行われました。

午後には、森のホール21、松戸市立博物館を見学後、各市、各理事間の親交を深めることに、情報交換を踏まえた懇談が行われました。今後の民児協活動の活性化に向け、意欲を高めることが出来ました。



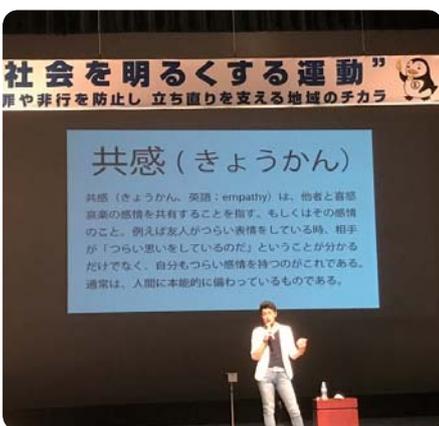
## 第69回 社会を明るくする運動

令和元年7月21日松戸市民会館にて「第69回社会を明るくする運動」が開催されました。

オープニングセレモニーで松戸地区作文コンテスト受賞作品「何気ない言葉」、「優しさと勇氣」を中学生が朗読しました。

続く講演ライブでは杉山裕太郎さんの「絆く共感こそ悲劇を救う」のタイトルで歌と講演が行われました。

杉山さんは、自身の壮絶な更生体験から愛と絆の大切さを歌う「魂のヴォーカリスト」として、全国の学校や市町村など各地で「魂の講演ライブ」の活動を続けておられます。最後は松戸市立第3中学校のバンド部による演奏でした。



# 松戸市立第一中学校みらい分校 夜間中学とは？



今年4月開設された、千葉県で二校目に当る夜間中学校、松戸市立第一中学校みらい分校を訪れました。稲積賢教頭先生に、一学期が終了した現在の実情を伺い、校舎内も案内していただきました。以下その概要を紹介いたします。

## みらい分校開設の背景

平成29年に制定された、「教育機会確保法」の趣旨に添って、夜間の公立中学校、松戸市立第一中学校の分校として開設された。

## 入学資格

- ① 満15才から。
  - ② 松戸市内在住者（市外者は在住市町村教育委員会の許可が必要）。
  - ③ 中学校未卒業者、又は不登校等の理由で学び直しを希望する者。
  - ④ みらい分校の生活に支障のない者。
- 以上の4点を全て満たす事が条件で、外国籍の方も同じです。

## 入学までの経過

入学や学年の認定を行う松戸市教育委員会「学務課」に連絡する。年度末と7月に設けられているみらい分校見学期間に参加し、体験入学を行う。体験入学後、面談を受け、元の中学時の状況や、欠けている学習等が勘案され配属学年が決められる。

## 開設時の生徒の状況

(2019年4月1日現在)

- 一学年 13名（ベーシックコース）
  - 二学年 5名（ミドルコース）
  - 三学年 4名（チャレンジコース）
- 別に、日本語での授業が不安な生徒対象のスタートコース（国社理の代わりに日本語指導）がある。
- ・ 国籍別
    - 日本13名 中国3名 ブラジル2名
    - カンボジア、フィリピン、アルゼンチン、ネパール各1名
  - ・ 年代別
    - 10代 6名 20代 2名
    - 30代・40代各3名
    - 50代 4名 60代 3名 70代 1名
  - ・ 入学条件別
    - 義務教育未終了者 3名
    - 入学希望既卒者 19名
- 県内他市町村在住者 1名（重複）

## 授業について

- ・ 授業時間は週20時間で、9教科全て実施している。音楽、美術、技術家庭体育は全員で受ける。
- ・ 特別教育課程が認められており、各学年、各教科の学習内容を精選し、生徒の学習ニーズや実態に合わせて取り組んでいる。
- ・ 定期テストは年2回、学習確認テストの意味合いで実施予定。
- ・ 日々の授業は、1科目40分で4科目行っている。途中25分の業間休みがありみんなで夕食（軽食）を楽しんでいる。

## 職員構成

千葉県職員（教諭等） 9名  
市職員（日本語指導、音楽専科、保健師事務職員、用務員） 5名

## その他

- ・ 費用として 教材費他、保険料等の自己負担金が年合計4千円程度
- ・ 交通手段 徒歩か電車バスの交通機関を利用。自転車、自動車は不可

所在地 松戸市古ヶ崎1-3073  
電話 047(312)2031

稲積教頭先生



「20代以上の方はほとんど仕事を持っている。入学以来は欠席がなく、みんな真剣に勉強している。一生懸命勉強している姿を見ると、学ぶというものの価値を、改めて再認識させられる」と稲積先生はしみじみと語っておられました。

リニューアルされた校舎内は美しく整備され、夜間中学の特殊性を配慮した設備の説明も受けました。

通常の学校机よりも10cm以上広い机。停電時の照明。光が外に漏れない遮光カーテン。外から内部が見えにくい特殊なフィルムを貼ったガラス窓。各学年の教室や廊下には、教科学習の作品、生徒の短歌や俳句、イラスト入りの、歴史上の人物研究新聞等が掲示され、授業の充実ぶりが伺えました。またスピーチコンテストや先生を交えてのグループ懇談、校外学習でのバーベキューの様子等、写真と共に掲示された行事の内容から、楽しさと同時に、生徒同士や先生方との温かい交流の様子が伝わってきました。

# 他市民児協を紹介します

前号に続き、今号では柏市と市川市の民児協を訪問し、活動の内容などをお聞きし、意見交換を行いました。

柏市と市川市は松戸市に隣接し、住民同士の交流も多く、情報を共有することも有意義なことと思います。また、部会の構成や活動内容なども今後の活動の参考になればと考えます。

## 柏市民児協の紹介

～未来都市を目指す  
柏市を訪ねて～

令和元年8月20日、柏市社会福祉協議会「いきいきプラザ」を訪問し、柏市民児協の話伺いました。柏市民児協会長山名恵子様はじめ5名の理事の方々、事務局の佐々木一茂様にご対応いただきました。

江戸時代には小さな集落であったこの地は、鉄道の発達にもない発展してきました。1980年代以降東京のベッドタウンとして急速に発展し、多くの商業施設も進出し、今では東葛地域の商業の拠点となっています。北部の柏の葉地域は文教都市を形成し、手賀沼や

利根川沿いにはまとまった農地も見られます。

## 民児協の概要・運営

◇地区民児協数は22地区

民生委員児童委員の定数は520名、主任児童委員の定数は44名となっております。今回の改選でさらに民生委員児童委員が10名増員される予定。

◇部会の構成



部会は四部門に分かれているが、「主任児童委員連絡会」以外の部会は1年ごとに担当を替え、三年間で各部会を経験する。

## 主な活動内容

民生委員・児童委員の主な活動のうち、特徴的なものを紹介します。

◇高齢者実態調査

例年5月15日から6月30日を「声かけ訪問」とし、市から名簿が提供され、

75歳以上の高齢者全員を訪問、実態調査をしている。

昭和50年代に国の事業の一環として行われ、当初は65歳以上を対象にしていたが、現在では75歳以上に引き上げ自主的に実施している。

◇学校との連携

各地区の定例会に、地域の校長先生、教頭先生に参加していただき情報交換を行っている。年度の前半に校長先生後半には教頭先生などのように日程を調整し実施している。具体的な問題も提示され、話し合いがもたれている。

◇社会福祉協議会との連携

就学前くらいの子どもを対象に子育てサロンを実施している。

◇各地区の特色ある活動

- ・一人暮らしの給食会
- ・独居高齢者を対象に、月1回食事会を実施。（8月は休み）ボランティアグループが手伝っている。
- ・花のプレゼント

地域の中学生が育てた花を中学生と一緒に高齢者宅を訪問し、プレゼントしている。その他にもいろいろな活動を紹介していただきました。

◇新任者の研修

各地区の定例会で実施する。その後県で実施される新人研修会に参加、また、理事5名で構成される企画担当が市民児協全体の研修計画をたて実施している。



## 今後の活動ポイント

柏市と松戸市は隣接し、市民の交流も多い。民生委員同士も活動内容など情報の交換をして、活動にいかしていけるよう交流していきたい。

## インタビューを終えて

民生委員が自主的に活動されている様子が伝わり素晴らしいと思いました。また、新任者の研修が組織的に行われている点も参考になりました。各理事、事務局の皆様ありがとうございました。

# 市川市民児協の紹介

～文化都市・市川市を訪ねて～



市川協  
マスコットキャラクター  
「てるぼ」

令和元年8月28日、市川市社会福祉協議会を訪問し、市川市の民児協の活動の様子についてお話を伺いました。民児協会長堀江弘孝様をはじめ副会長・会計の4名、事務局の方2名に対応していただきました。市川市は都心に近く、多くの文化人を輩出しています。

市川市は、東葛地区に位置し、人口49万人の都市です。東京都心から近く、通勤・通学の便のよさから、東京のベッタタウンとして発展しています。

## 民児協の概要・運営

◇地区民児協数は18地区

民生委員児童委員の定数は488名、

※実数は488名(8月1日現在)主任児童委員の定数は37名となっています。

◇部会の構成

高齢者福祉部会

児童福祉部会

その他、年に数回実施される主任児童委員連絡会で構成されています。

行政や自治(町)会・社会福祉協議会

・地域包括支援センター(呼称：高齢者サポートセンター) 学校・警察など関係機関と意見交換をし、地域住民の方への支援方法について話し合いをしています。

## 主な活動内容

◇「ひとり暮らし登録」への協力

市川市に登録している65歳以上の独居の方の名簿が市から配布される。その登録者に対して訪問・電話等により月1回以上の見守りを実施し、その結果を書面にて毎月市へ報告をする。それとは別に毎年、全世帯の65歳以上の名簿が市から配布される。

民生委員活動以外では使用しないとの覚書を市民児協と市川市長で取りかわし、1年後返納する。

◇敬老の日のお祝い金

市から80歳以上の方にお祝い金が出るので、民生委員が届ける。「ひとり暮らし登録」されていない方にも出る。届けるときで、話が出来るときかけになり地域の実情把握に繋がる。

◇警察との連携

「子ども及び高齢者の安全安心に関する覚書」を締結し、情報交換し何かあったら協力をする、という体制が出ている。

◇新任研修

行政主催で12・4・8月の年3回施している。

◇地域との連携

市川市では教育委員会内に「学校地域連携推進課」が設置されており、地域の協力者へ向けた学校支援実践講が開催されている。民生委員も講座積極的に参加していく中で、以前へ学校へ入りやすくなり、学校との携が取りやすくなった。

◇各地区の特色ある活動

- ・絵本の読み聞かせ
- ・(民児協主催の子育てサロン)
- ・福祉コンサートやふれあいの集い
- ・地区社協事業への協力。
- ・中学校区で自治(町)会・担当民生委員が集まり話し合いをしている。お互いの顔を知る良い機会である。

## 今後の活動ポイント

今までは高齢者の方々への支援が主な活動であったが、高齢者を支える環境もそれなりに整ってきており、これ

からは、子どもの事に今まで以上に目を向け、子ども・保護者・学校と連携し、舌動を速めていく。



## インタビューを終えて

民生委員児童委員の活動に必要な情報を得る為、又子ども達を危険から守り、健やかに育てる為に、学校・行政・社協との連携強化を進めている、とお話をお聞きして、驚き、感動しました。やはり黙って待っているだけでは実現できない事を実感しました。



# 改選期・区切りの時期を

## 迎えて思うこと



今年12月は3年に1度の一斉改選期にあたり、各地区で退任される方、これから新たに民生委員児童委員になられる方が多くいます。「愛の小鳩」も

ちよんご8号という区切りでもあり、皆様にも「いろいろな区切り」を迎えて、振り返り、経験、思いなどをまとめていただきました。

新たに民生委員児童委員になる方や継続される方々にも参考になる「活きた言葉」をお伝えできればと思います。

### \*大変だったが今は・・・\*

主任児童委員として四期が終わりです。当初はこれほど長く携わるとは考えていませんでした。当時、世の中では子どもに関する問題が日々起こり、心の病、DV、虐待など、どう向き合ったら良いか悩んだものでした。しかし、連絡会で研修や事例勉強などを重ねるたびに、前向きにとらえることができようになり、委員にならなければ知り得なかったことも学べ、今では与えられたこのような機会に感謝しています。振り返ってみて、委員として役に

立つことができたのかと思う点が多々ありますが・・・。

私は他にも2つの部会の長を6年やりました。忙しいですが、各部会で他地区の方々や研修し、考え方やものごとを話し合うことで、主任児童委員とは違った刺激を受け、交流を持って良い時間を共有できました。

最後に、新任児童委員になられる方には、これから見聞きすること、体験すること、関わることを全てが自分にとって大切になると考えてほしいです。できることは小さなことかもしれませんが、一歩踏み出さなければ変われるものも変わらないうえです。独りよがりにならず、皆と力を合わせて物事に取り組んでほしいと思います。(A子)

### \*最初の不安も努力で解消\*

地域の役にたつならと気軽に引き受けた民生委員の役割。日を追う、活動が日常化する中で自分がやっていること、やろうとしていることがよく理解できないため、不安が先に立ち辛い気持ちでした。新任者の共通の悩みなの

だろうが不十分な対応しかできない自分分はこれからどうしていけばよいか悩み落ち込んでいました。活動記録記入も曖昧さを残しながら何とか処理をして済ます状況でした。

民生委員活動の原点は担当地区住民の見守りであることは認識するもの、ほとんど何もわかっていません。そこで、担当地域の現状を把握することが先決であると認識し、調査活動をしました。住宅地図を片手に分かったこと、気づいたことなどを記入していきまし

た。努力のかけがえがなくて資料が集まり何か安心感がうまれました。その後の課題に対して、その地図を手元に置き諸課題の理解に努めました。現在も続いています。地域内のことの変化に対応しながらも重要なことはノートに記載して資料として残しました。この資料などは次の担当者に引き継ぎます。おそろく次の方の活動に役立つものと確信しています。

民生委員活動の中身は多岐にわたりますが、初めのころは何をやるにしてもただ参加するだけであまり充実感が

ありません。そこで、地区の民児協の活動や市の研修会や各地区部長による部長会に積極的に参加し、仲間関係を深めながら知識を広めることに努めました。参加した市の援護部会では、その経験を活かして自ら進んで会に参加し活動もしたので、得たものが多くありました。

頑張りがあった得たものも大きかったのか、充実感を得て三期が終わりそうです。(B男)

### \*自身の誇りに思える\*

町会長より、「一人暮らしの家を時々訪問し、月1度の会議出席だけだから民生委員を受けてほしい！」との話があり、その程度なら受けてもよいと思ひ民生委員の活動が始まりました。

当時、介護保険が始まった頃で、介護・高齢者・生活・子育ての各支援、三部会、連絡会、小中学校・社会福祉協議会との関わりなど、全てがマールクで大変など言っていたらわたくし多忙の毎日でした。

見守り訪問しても楽しい話ばかりではなく、傾聴するだけで相手の方が安心されるのを感じ、またお一人暮らしの方が終の棲家で亡くならぬ、関係者の方からお礼を言われたことなど、活動を通して大変さはありませんが、地域にもとけ込め、民生委員をやってきた

て自分自身誇りに思います。

大変な時は辞めたいと思うことがあ  
るでしょうが、一人で悩まず、抱え込  
まないで、先輩、行政、関係機関にど  
んどん相談しながら解決の方向に行け  
たらと思います。(C子)

### \*仲間と共に乗り切った\*

私が民生委員を引き受けて早九期、  
最初は民生委員の仕事が何かもよく理  
解せず、いろいろな相談を受けるた  
びに先輩や同期に助けをもらい乗り切っ  
てきました。2008年4月施行の介護保  
険法では市町村が介護予防事業や包括  
的支援事業など地域支援事業を実施す  
るようになり、民生委員活動もかなり変  
わりました。

また近年は引きこもりや虐待などの  
ニュースが多く見聞きするたび、心穏  
やかではいられず事前に防ぐことがい  
かに大事かを感じています。(D子)

### \*支援で元気をもらった\*

民生委員委嘱から8年、最初の心構  
えを先輩に学び、人に寄り添い地域の  
中で少しでも役立てるよう実践してい  
きたいと思いました。

私の地域は高齢の女性が多く、認知  
症、また持病で苦しんでいる方に直面  
しました。70歳のSさんは脳梗塞の後

遺症で体調が悪いので緊急通報装置を  
つけてほしいと、それが最初の出会い  
でした。その後、メニエル病を発症し  
て、目まい、吐き気の発作が起き、救  
急搬送→入院後帰宅を半年ほど繰り返  
しました。Sさんは私だけこんなに苦  
しいのかと悩み、発作の不安におびえ  
ていました。私はSさんの日常生活の  
様子をじっくり聞きました。Sさんが

ストレスをためず、前向きに毎日を送  
られるよう、今日無事に生活できたこ  
とに感謝し、良くなることを考えて日  
々努力することを話し合いました。結  
果、発作が起きなくなりました。今は  
パーキンソン病を発症していますが、  
週2回のデイサービスに行き、自分よ  
りもまだ大変な人がいることを実感し、  
自分の病気を受け入れています。現実  
は、決して楽ではないが、周りにいる  
ケアマネ、ヘルパー、訪問医療などで  
前向きに生活しています。私は一生懸  
命生きているSさんから元気をもらい  
共に喜びあっています。

また、96歳の認知症のBさんには、  
同じことを何回も言われても、「ああ  
そうですね」と優しく返し、興味があ  
ることを引き出して会話が出来るよう  
努めました。笑顔で話してくれ時が過  
ぎるのを忘れるような会話ができまし  
た。娘さん二人も協力的で親子関係も

良く教えてもらうことも多々あります。  
現在週3回のデイサービスを楽しみ、  
毎日楽しく過ごされています。私も見  
守りを楽しみに訪問しています。

今は、民生委員になったこと  
に感謝しています。(E子)

### \*達成感と仲間との絆\*



民生委員として13年余り経ちました。  
民生委員の活動は、地域差はあるもの  
の正直大変ですが、事例を通して学ぶ  
ことも沢山あります。世の中には様々  
な人たちがいて、格差があることも事  
実で、世間の矛盾を感じざるを得ませ  
ん。

そんな中、相談者からの悩み、困り  
ごとなどをより良い方向に向けるため  
のつなぎ役を果たせた時の達成感と言  
葉では言い尽くせません。そんなやり  
がいのある活動です。

そして、民生委員の一員になったこ  
とでの出会い、仲間との連携、絆が生  
まれ、それが自分にとってかけがえ  
のない財産になりました。皆さんも困  
っている人たちに手を差し伸べること  
をぜひチャレンジしてください。(F男)

### \*2度目の定年を迎えて\*

70才の少し前に民生委員になり、二  
期で定年を迎えた時、前々から子ども

達に勧められていたマンション生活に  
変りました。しかし、そのマンション  
には民生委員不在、定年も78才に延長  
で再度民生委員を依頼され、私も余力  
はあったので引き受けました。

各委員は定例会、研修発表、市の行  
事などに参加し、包括支援センター、  
保健センターとの連携もスムーズに行  
われ、たくさんのお事例も委員相互の  
話し合い助け合いのもとで解決して  
おり素晴らしいです。私は、以前から  
地区社協のさまざまなボランティアにも  
年近く参加しています。2度目でした  
が、親しい方もでき、一人住まいの方  
高齢者夫婦など、見守りで訪問しまし  
たが、何事もなく過ごせたことは幸  
でした。(G子)

### \*定年を迎えて感謝の一念\*

民生委員を九期行い、感謝の一念で  
す。理由は担当区域内には特に大きな  
問題事例がなかったからです。ただし、  
特筆すべき2件があります。1件目は、  
高齢認知症の女性が毎日電話をかけて  
くることでした。留守電にメッセージ  
が何十件もありましたが、2、3か月  
も過ぎたころに施設に入所されました。  
2件目は30代の一人暮らしの精神障害  
のある女性で、毎日のように電話で愚  
痴話、気を静めるようにアドバイスし

ても「家にきて話を聞いて！」私はひたすら傾聴するのみでしたが、半年後には転出され終了しました。

友愛・配食での調理のお手伝いも楽しい思い出です。80歳の女性はいつも飲み物を用意してくれました。話に花が咲き、代金を忘れて家まで届けてもらったことも良い思い出です。社会を明るくする運動の講演会で勉強し、中高生の合唱や演奏には感動し、心が洗われ、子育てサロンでは元気をいただきました。有難うございました。(H子)

**\*地域の潤滑油になれた\***



2010年に民生委員になり9年が経ちました。2011年3月11日に東日本大震災が起き、民生委員の重要さが再認識されましたが、個人の力は微々たるもの、私は、仲間や地域の方々に助けられようにか日々を過ごすことができました。勉強会、講習会、講演会など、楽しく学び、高齢者相談協力員とも助け合いながら地域の方々の相談にも多少なりとも寄りそい、地域の潤滑油としての役割も大きかったと思います。「いきいき安心センター」の存在はとても大きく、安心させられました。

私は、地区社協の児童部のお手伝いで、月に三回、入園前の子どもと若いお母さん々と触れ合いのフレッシユしま

した。また、町会とも話をし、老人会や町内会の行事のお手伝いに参加し、少しは地域のお手伝いが出来たのかと思います。

これからますます高齢化が進みます。皆で、自助、共助、公助、少しでも住みやすく、明るい未来を目指したいと思います。(I子)

**\*今度は引き継いだ\***

前回の改選で退任し、肩の荷が軽くなり、体調もよくなりウォーキングを始めました。しばらくして引き継いだ方が転勤、次の人が見つからないことから任期の後半を受け持つことになりました。今回の改選時期が近づくにつれ、委員活動を続けるかを悩みましたが、若手の候補者が引き継いでくれることになりました。体調を考慮するとタイミング良くバトンタッチできて良かったと思います。(J男)



皆様一様に感謝の言葉を述べられておられました

**編集後記**

113年間の思いをこめて

「愛の小鳩」の編集は、毎号3つの班で分担し作成する方式で3年間活動してきました。最後に各班で3年を振り返ってみました。

\* \* \*

★1班の活動は民生委員設立百周年の年表作りから始まりました。先達の活動に思いをさせつつもこの先の広報委員としての活動には大きな不安を感じていました。

しかし、福祉用語を特集したり、他市民児協を訪問して活動の様子を聞いたりする中で、たくさんのことを学ぶことができました。また、班の仲間や他の委員の皆さんに助けて頂き充実した3年間を過ごすことができました。

★2班は、毎号発行の都度、記事の妥当性・正確性に問題は無かったか気になっていました。

直近の59号で「福祉用語」を掲載しました。現場で使われるアルファベット略語としてADLとIADLを取り上げ、IADLはADLよりも複雑な日常生活動作と説明しましたが、若干疑念が残っていました。

その後、福祉の講演を聴講した際に、講師がBADLと述べられたのを耳にした瞬間、IADLとBADLを対応する言葉と捉えることができ、これまでの釈然としなかった気持ちがスッキリしました。

無論、59号で記載した説明が、国内での一般的な解釈と思いますが、それでも事前IADLを見聞きしていれば、記事の内容を更に推敲できたと思います。

★3班は、記事編集の基本として、「日常の民生委員児童委員活動の役に立つ記事づくり」としました。具体的には、広報委員がその場に出向き、インタビュー形式をとって、知りたいことや関心の高い事についてお聞きしたり意見交換をしたりして、できるだけ生の声を記事にすることを心がけました。

56号では「子どもの未来に向けた取り組みと対策」、57号では「前進する子ども食堂」、58号では他市民児協を訪問しました。その他の記事づくりも、各委員の発想を活かしつつ、「生きた記事づくり」に心がけました。

民生委員制度100年の歩みを鑑みて、「さらなる一歩」を踏み出し、その記念する広報紙づくりに関わられたことは良かったと思っています。

\* \* \*

59号から開始した他市民児協の訪問は、今号で2回目です。お話を伺って活動の共通点や悩み、そして地域性のある特徴的な活動を知ることができ、広報委員にも貴重な体験となりました。今後も継続した記事になれば、そしてその他の記事も、皆様にとって何らかのお役に立ち、活動の一助になれば嬉しい限りです。

